

コールセンターからの小さなよみもの

2018年4月27日

Vol.111

きん
金

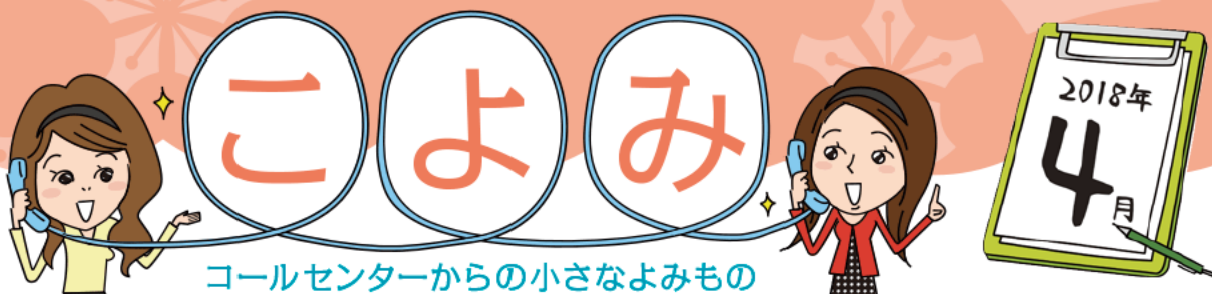
「有事の金」っていうけれど・・・

世界景気は好調を維持しており、リスク資産投資への期待はあるものの、米国の金利上昇や、日米の政局が不安定なことなどから、市場には警戒感が漂っています。

このような中、「有事の金」という言葉があるように、資金のリスク回避先のひとつとして実物資産の金があげられます。

そこで今回は、投資対象のひとつとして「金」の特徴について押さえていただきたいと思います。





足もとの市場を取り巻く環境は、米中の貿易摩擦への警戒、日米の政局不安、北朝鮮を巡る地政学リスクなどあらゆる不透明な材料に直面しています。日米欧は景気の良いさを保ちながらも、市場ではリスク回避姿勢が強まり、株式などのリスク性資産は値下がりがし、為替は円高に推移しました。一方で金価格は、安全資産としての需要の高まりから比較的堅調に推移しています。

金は、希少価値が高く、金自体に価値がある実物資産で、「価値がゼロにならない」「インフレに強い」といわれています。そのためリスク回避姿勢が強まった際には、資金の逃避先として買われる傾向があり、「有事の金」といわれます。一方で、金自体は利子や配当を生み出さないため、政策金利の引き上げや金利上昇は下落要因となります。

金価格は、米ドルが下落(米ドル安)すると上がり、反対に米ドル高になると下がる、という米ドルと逆の動きをする傾向があります。それは、基軸通貨の米ドルが下落すると、安全性が高い資産とされる金を買われる傾向があるからです。また、株式や債券などの主要資産と価格の動きが異なる傾向があり、価格変動の関連性が相対的に低くなっています。そのため、主要資産に加えて金を併せ持つことは、分散投資にも適していると考えられます。

金に投資をする場合には、^{きんじがね}金地金などの実物を利用するばかりでなく、ETF(上場投資信託)を含めた投資信託を通じて投資することができます。また、投資対象の中に金が含まれるバランス型の投資信託もあります。

市場が不透明な中、金を投資対象のひとつとして注目してみてもはいかがでしょうか。



nikko am



コールセンター

0120-25-1404

営業時間 平日 9:00~17:00